

# KG JOURNAL

関西学院通信 [関学ジャーナル]

JANUARY  
2022 WINTER  
No.273



関西学院大学

## まだ見ぬ世界へ。

越えていけ、学問領域を。自由に探究し、世界の課題に挑め。越えていけ、国境を。  
異なる思想や言葉がぶつかり合うことで、新たな光が生まれる。越えていけ、すべてを。  
あなたの目の前に立ちかはる、すべての困難を。目指すのは、まだ見ぬ世界。





# KG JOURNAL

JANUARY  
2022 WINTER  
No.273

関西学院通信  
[関学ジャーナル]

## 学長のポケット

学長・村田 治



## KSCの飛躍の年

明けましておめでとうございます。新しい年が始まりましたが、関西学院にとっても新たな一歩が始まります。特に神戸三田キャンパス(以下、KSC)は、2022年は大きな飛躍の年になることが予感されます。4月から、KSCの地名「三田市学園2丁目」が「三田市学園上ヶ原」に変更になることが昨年12月の三田市議会で承認されました。西宮上ヶ原キャンパス(以下、NUC)と同じ地名になります。KSCとNUCの学生がともに校歌「空の翼」を思う存分に歌えるようになります。

KSCの新たなコンセプトはイノベーションとSDGsです。昨年4月に開講された理学部のアントレプレナーの授業は200人以上の学生が受講しています。また、アカデミックコモンスのBiZCAFEでは、株式会社スノーピークとKSCの学生が共同開発したマイボトルによる無料飲料の提供活動も進んでおり、2021年度はKSCのペットボトル約98,600本の削減が達成される見込みです。今年1月には、建築学部の下に「ヴォーリス研究センター」が立ち上がり、ヴォーリス建築やヴォーリス自身についての研究が始まります。さらに、新棟の屋上に理学部の天体望遠鏡が設置され、近接の土地でのインキュベーション機能を備えた学生寮の建設計画も進行中です。2022年がKSCの飛躍の年になることを心から期待したいと思います。

- 1 学長のポケット
- 2 特集 世界市民を育む、学びがある。  
#新生KSC  
まだ見ぬ世界へ。  
地球規模の課題に新しい価値観で挑む
- 13 TALK DEEP  
~感染症と私たちの暮らし~
- 19 Research & Research  
経済学部 山鹿 久木 教授
- 21 Moment
- 23 ひとひと  
阿部 紗也さん(国際学部3年生)  
眞鍋 ヨセフさん(神学研究科 博士課程前期課程1年生)
- 25 KG CLUB  
Eco-Habitat関西学院
- 27 学院通信  
関学カプセル  
KGグルメ
- 31 数字でみる関学  
関西学院大学の公式SNS
- 32 世界の街角から  
マカオ 浅井 亮成さん
- 33 Libraring  
AI活用人材育成プログラムとのコラボ企画  
特集「AI」実施中!
- 34 聖書に聞く  
院長 舟木 譲

新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた上で、取材・撮影しています。

今号の表紙「まだ見ぬ世界へ。」

KSCの学びを、教員や研究のイメージで表現しています。コンセプト紹介サイトも公開中。ぜひご覧ください。

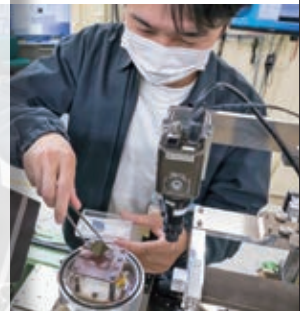




# 新生KSC

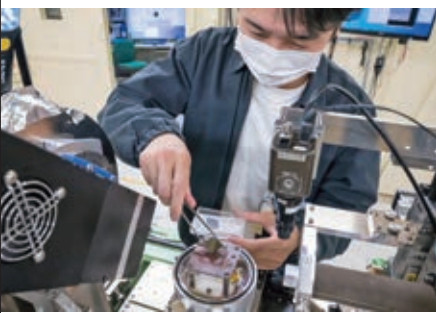
# まだ見ぬ世界へ。 地球規模の課題に新しい価値観で挑む

深刻化する環境・エネルギー問題、貧困や格差・差別の広がりなど、地球規模の課題の解決に新しい価値観で挑む人材を育てるため、2021年春、新生KSC（神戸三田キャンパス）のチャレンジが始まりました。文理や学部を横断する学びの実現や、SDGs達成につながる活動の展開など、“Be a Borderless Innovator（境界を越える革新者たれ）”を掲げ、未知の世界へと進化を続けるキャンパスの今に迫ります。



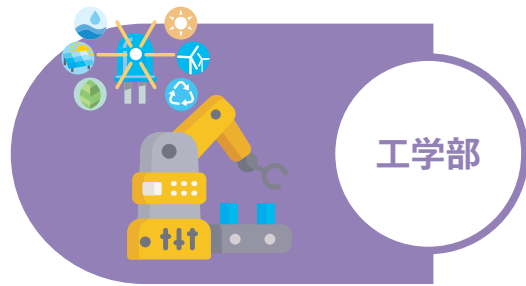
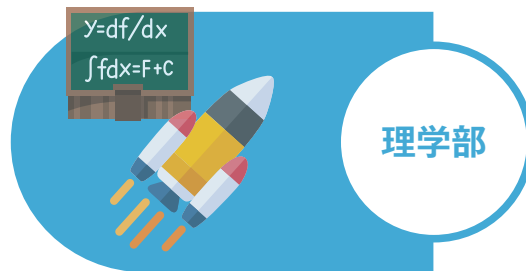


# 学び



## 専門分野の学び

各学部の専門分野を学ぶ授業



### KSCオリジナルプログラム

文理を越えて社会で求められ、  
時代を切り開く力を育むプログラム。

# 文理・分野横断型の学びで 複眼的な視点を持つ人間に

所属する学部での専門的な授業に加え、各学部が他学部生に提供する「KSC分野横断プログラム」やSDGsなど特色ある知識スキルを養う「KSCオリジナルプログラム」から成る文理・分野横断型教育システムを展開。ポードリースの学びで複眼的な視点を養い、学生たちの将来の選択肢を広げます。

## 将来像



### ベンチャー起業家

- ▶SDGs実践入門
- ▶KSCアントレプレナー育成プログラム
- ▶経営学基礎プログラム



### 経営者

- ▶SDGs実践入門
- ▶経営学基礎プログラム
- ▶SPring-8活用プログラム



### データサイエンティスト

- ▶AI活用人材育成プログラム
- ▶数理科学プログラム
- ▶情報工学基礎プログラム



### 研究・開発職（メーカー）

- ▶AI活用人材育成プログラム
- ▶SDGs実践入門
- ▶環境応用化学プログラム
- ▶SPring-8活用プログラム



### コンサルタント (環境系・都市開発系)

- ▶SDGs実践入門
- ▶環境応用化学プログラム
- ▶建築学プログラム

### 総合政策学部系

経営学基礎プログラム

### 理学部系

数理科学プログラム  
物理・宇宙基礎プログラム  
化学基礎プログラム

### 工学部系

物質工学プログラム  
電気電子工学プログラム  
情報工学基礎プログラム  
実践人工知能基礎プログラム

### 生命環境学部系

生命科学プログラム  
環境応用化学プログラム

### 建築学部系

建築学プログラム

### 理・工・生命環境学部 3学部提供

自然科学基礎プログラム

## 文理・分野を越えた

### KSC分野横断プログラム

学問分野を越えて各学部が他学部生に向けて提供する、  
基礎科目で構成されたプログラム。



### AI活用人材育成プログラム

日本IBMとの共同開発により2019年に開講。AIやデータサイエンス関連の知識を養い、AI活用に必要な知識やスキルを基礎から実践、応用まで段階的に積み上げる学びを展開し、文系、理系関係なく、AIやプログラミング等に関する特別な知識やスキルがなくても受講が可能。AI活用の実践に挑戦する課題解決型学習にも取り組みます。

### KSCアントレプレナー育成プログラム

「AI活用人材育成プログラム」をはじめ、KSC分野横断プログラムとして総合政策学部が開講する「経営学基礎プログラム」、開学出身の起業家12人を講師とする「ベンチャー起業家講座」（理学部開講）と「ベンチャービジネス演習」（総合政策学部開講）を正課科目の授業として展開しています。また、起業に必要な実践スキルを養う正課外プログラムとして「Kwansei Gakuin STARTUP ACADEMY for KSC」を開講しています。

### SPring-8活用プログラム

KSCの学生を対象に、兵庫県の播磨科学公園都市にある世界3大放射光施設の一つSPring-8での実験実習の機会として開講。世界最先端放射光計測の体験を通して、先端放射光分析の実践的な技術を身に付けます。

### SDGs実践入門

各学部の教員に加え、多彩な分野からゲスト講師を招き、オムニバス形式で実施。ビジネスや都市デザイン、科学など、さまざまな切り口から世界が直面する問題を学び、SDGsの達成につながる実践的な活動やその在り方を考えます。

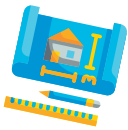
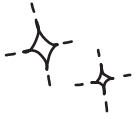
K S C  
学生と語る!

# 文理・分野を

# 越えた

# 学びへの期待

5学部体制となったKSCで、文理・分野横断型キャンパスの取り組みがスタートして10カ月。人と人がつながる仕組みを設計するコミュニティデザイン・の先駆者である山崎亮・建築学部教授を交え、KSCに通う4人の学生が、学びの現状や自身の成長、将来の目標などについて語り合いました。



工学部  
知能・機械工学課程1年生  
藤原 一貴さん

進学情報サイトで目にした関西学院大学のAI研究に興味を持ち、入学。「AI活用人材育成プログラム」などでAIの知識を深める一方、動画制作を行う団体でも精力的に活動している。

理学部  
物理・宇宙学科1年生  
山下 音緒さん

宇宙についての学びを広め、想像力を育てる団体を設立し代表を務めるほか、「ベンチャー起業家講座」などを受講。建築学部の開講科目も学んでみたいと考えている。

建築学部  
山崎 亮 教授

大阪府立大学農学部在学中、メルボルン工科大学環境デザイン学部に留学。大阪府立大学大学院農学研究科修士課程修了後、建設コンサルタント会社勤務を経て、2005年に株式会社studio-Lを設立。2013年に東京大学工学研究科博士課程を修了し、2021年から関西学院大学建築学部教授を兼任。専門はコミュニティデザイン。

総合政策学部  
国際政策学科3年生  
西方 大介さん

西立野修平・総合政策学部准教授のゼミで、日本の途上国支援の有効性を研究。将来はデータ分析技術を用いて、子どもの個性を生かした勉強を教える塾を開きたいと考えている。

理工学研究科  
生命科学専攻M2年生  
山下 倫桜さん

北條賢・生命環境学部准教授の研究室でアリの腸内細菌について研究している。高校時代の理科の先生に憧れ、自らも卒業後は理科教員として兵庫県内の私立高校で教壇に立つ予定。







**山崎** まずは自己紹介も兼ねて、皆さんが学んでいることや取り組んでいることを教えてください。

**山下音** 小学生の時に読んだ絵本「地球と宇宙のおはなし」に感動し、宇宙が好きになりました。理学部に入學してすぐに、アカデミックコンモンスプロジェクトで「UNIVERS&(ユニバーサンド)」という団体を立ち上げました。同じ学科と工学部の1年生8人と共に、宇宙教育を通じて学生の想像力や思考力を育む活動に取り組んでいます。

**藤原** 興味のある分野はAIで、工学部でプログラミングなどを学んでいます。僕もアカデミックコンモンスプロジェクトに参加している「Give Films(ギブフィルムズ)」という団体で、見た人が新しいことにチャレンジするハードルを下げられるような動画を作り、発信しています。現在、関西学院大学の研究推進社会連携機構社会連携センターと一緒に、研究室の紹介動画の作成を計画しているところです。



**西方** 総合政策学部の西立野修平准教授のゼミで、国際経済学と統計学を学んでいます。今は論文大会に向け、途上国に対する日本の貿易援助の有効性について、データ分析で得た結果を基に執筆しています。

**山下倫** 理工学研究科で北條賢准教授の研究室に所属し、昆虫のアリの腸内細菌が、アリの生態にどのような影響をもたらしているのかを研究しています。教職課程も履修し、今年4月からは高校の理科教員として働く予定です。

## 近代を経て見えてきた新たな課題 必要なのは「はみ出し、交わる」力

**山崎** 突然ですが、「近代」という言葉を聞いたことがありますよね。日本においては明治以降に当たる近代は、学問を分野に分け、各分野の課題を深めていけば、この世の全ての問題が明らかになると信じられていた時代でした。しかし、そこから約150年たつて分かったのは、各分野を徹底的に究めても、なお解決できない問題がたくさんあるということです。例えば、貧困問題に関しては生活保護などの対策がすでに用意されています。しかし、貧困の状況にある人が軽度の知的障害によつて仕事を続けられない場合、貧困の専門家の他に、自立支援医療の専門家が一緒に取り組まなければ解決できません。こうした複数の領域が混ざった問題だけが社会に取り残されてしまっているのです。

これらの問題の解決には、各分野を深めると同時に、文理を融合させたり、分野を乗り越えたりして協働するコミュニケーション能力などが重要になってきます。自分の専門分野を持ちながら、それぞれが他の分野に「はみ出す」ことで他の分野の人と交わり、新しい価値を生むことができるのではないのでしょうか。そして、今のKSCにはそれができる環境があると感じています。文理分野横断の学びについて、実際に体験して良かったことや、今後やってみたいことはありますか。

**山下音** 先日、「UNIVERS&」のアクティビティとして、「火星移住」をテーマにディスカッションをしました。火星は地震が起りやすく、また、酸素が少ないため、地下で暮らさなければなりません。住居の耐震構造などを、建築学部だけでなく、工学部や総合政策学部の学生も一緒になって考えました。個



人的な将来の目標としては、物語を作ってみたと思っています。絵本や漫画映画などに影響されて生きてきたからです。フィクションのストーリーに事実を織り交せることで、いろいろな知識が自然と身に付いたり、自分でも学んでみようと思えたりする物語が作れるよう、もっと勉強したいです。

**山崎** そうした物語を伝える作品制作も、共同作業になりますよね。映画であれば、ディレクション、照明、カメラなどを専門とする人たちが協力して作っていきます。作品制作では、どんな分野を横断して仕事をする必要がありますから、今からその練習に近いことをやっているのは、素晴らしいですね。

**藤原** 私は「AI活用人材育成プログラム」を受講しています。知識ゼロの状態からスタートしましたが、概要を学び実際に使ってみることで、AIについて理解することができました。ただ知識を持つだけでなく、将来、会社などでAIを使った課題解決を提案できるよう、今後は「ベンチャー起業家講座」も受講し、プレゼンテーション能力を身に付けたいです。

**山崎** 専門家たちは、誰もがAIを水や空気のように気楽に使えるよう、ディープラーニングの仕組みなどを考えています。ただ、水や空気のようなものがどういうものなのかは、分野を横断し、文理を融合して考えていかないと想像できないのではないかと思います。これは、文理分野横断の学びのモデルケースです。

## 他学部の講座を受けて気付けた 自分のアドバンテージ

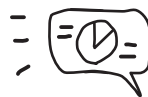
**山崎** 3年生や大学院生の二人はどうですか。

**西方** 新しく設けられた文理分野横断の科目は、

$$y = df/dx$$

$$\int f dx = F + C$$

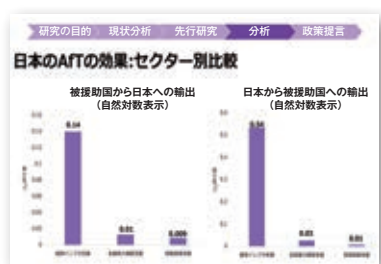




まだ受講したことがありません。今の研究を始めたのは、授業で国際協力機構（JICA）職員に途上国の現状を聞いたことがきっかけです。日本は世界トップレベルの資金援助をしています。ですが、その有効性に疑問を持つようになりました。

**山崎** 政府開発援助（ODA）を通じて何十億、何百億という支援金が途上国に送られているものの、結局は途上国の特権階級が使ってしまう、現場には数億円しか届かない構造になっていますね。

**西方** はい。そこで、データ分析手法に基づき国際経済を読み解く西立野先生のゼミに入りました。例えば、日本が1万円を援助したら途上国の経済が何%成長するのかがデータ分析によって分かります。これを機にデータサイエンス分野を究めたいと思い、昨夏に西宮上ヶ原キャンパスで開催された、経済学部の集中講座「データ分析サマースクール」に参加しました。数字で結果が見えるのが面白いと改めて感じるとともに、先にゼミで学んでいた分、周りの学生と比べて自分にアドバンテージがあるなと思いました。これも文理・分野横断の学びになるのかもしれないですね。



**山崎** 研究室の中では、優秀な先輩たちに囲まれて「自分は1番手



ではないな」と思うかもしれませんが、分野を横断し、他分野の人たちとプロジェクトに取り組んでみると、そこには知識を持っていて、自分の強みが見えてくる場合があります。また、「私はこれができます」と言える強みがなければ、他分野を研究している人と協働したいと思っても興味を持ってもらえません。分野を横断して学びを広げることがもちろん大切ですが、自分の強みとなる専門分野もしっかりと持つてほしいと思います。

### 異なるアプローチをする分野との共同研究の必要性を実感

**山下倫** 他分野の研究者との共同研究を通じて、自分の専門分野だけでは解明できないことについては、分野を横断して研究を進めていく必要性を感じました。私はマクロの視点でアリの生態や生活様式を調べ、共同研究者はミクロの視点から細菌に焦点を当て、アリの腸内のどこに細菌がいるのかなどを調べます。これにより、アリの行動を変えていくのは腸内細菌ではないかという仮説を立てて研究を進めています。



**山崎** 腸内細菌が変わると、アリの性格が変わったりするのですか。

**山下倫** 腸内細菌はさまざまな機能を持っていて、種類によって



は、攻撃的になることもあります。

**山崎** 私の専門分野である建築学についてもお話ししておきます。建築と聞くとデザイン、つまり意匠の分野を思い浮かべるかもしれませんが、建築学の中には、建物の強度を考えた時、電気衛生空調設備などを整えたり、建築関連の法令遵守や予算調整など、幾つもの分野があります。それらを全て統合させた上で美しい建築を形作るのが、意匠分野の役割です。建物を建てようとする時、それぞれの分野の人が協働しなければならぬため、分野横断が比較的やりやすい学問だと言えます。

もしも、建築を専門とする私たちがアリの腸内細菌を研究している人と一緒に何かやろうとなったら、「何ができるだろう」とわくわくしますね。

**藤原** アリに強い建築素材の開発などでしょうか。

**山崎** それもあるかもしれませんが、興味深いのは、アリの腸内細菌を入れ替えると、アリの巣はどのような形になるのだろうかということです。きれいな基盤の目状の巣になるのか、また、その構造を建築に生かさないかなどがとても気になります。

**山下倫** 考えもしなかった建物ができるかもしれませんね。

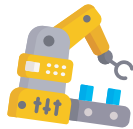
### 所属する学部にかかわらず自分に必要なスキルを養える

**山崎** 昨春に生まれ変わったKSCについて、魅力を感じていることや、今後、期待したいことはありますか。

**藤原** 一般的には、大学に入る前に自分の専門分野







を決めて入学  
すると思いま  
す。しかし、実  
際に大学で勉  
強していると、  
「これは専門  
と違う分野だけど、自分に必要な  
学びだな」と気付くことがあります。



僕の場合は、ビジネススキルなどがそれに当たる  
と今は考えているのですが、そんなときに、文理や  
分野を横断して学べる科目やプログラムが用意さ  
れているのはいいですね。



してゼミや研究室単位で研究内容を発表し合ったり、  
ディスカッションをしたりして、他の分野のことを学ぶ  
機会があつたらいいなと思います。

山崎 その発表を聞いて、「この人と一緒に組みたい」  
と手を挙げられるようなことができればより分野  
を越えた学びが進んでいくでしょうね。

### 難しい勉強も頑張れる 夢や興味関心が学びの原動力

西方 文系学部の学生として懸念されるのは、理系

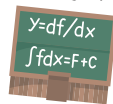
山下倫 私は研  
究室にこもって  
たせいか、「新生  
K S C」と聞いて  
も、何かが大きく  
変わったという実  
感は正直そこま  
でありません。今  
後、アカデミック  
モンスを会場に



学部の授業を受ける場合、物理や数学などの基礎を  
習得していないために難しいのではないかといいこと  
です。

山崎 確かに数学的基礎がないと、難しい授業を受  
けるのは大変かもしれませんが、さまざまな分野の  
人が参加するプロジェクト特化型のプログラムであ  
れば大丈夫ではないでしょうか。自分の得意分野を表  
明しておけば、お互いの得手不得手をメンバー同士で  
補い合えるので、より参加しやすくなると思います。

山下音 「UNIVERS&」のメンバーとも、活動  
を通して「逃げの文系」を減らしたい」とよく言っ  
ています。「理系の学問って、  
面白そう」と思っても、いざ  
調べてみると難しそうな数  
式が並んでいて、数学が苦  
手だからと諦めて文系に  
進むことがあると思います。  
しかし、私たちが授業で全  
員がすらすらと数式を解  
けるわけではなく、毎回悩  
みながら学んでいます。そ  
れでも頑張れるのは、宇宙  
への興味や、自分自身の夢の方が大きいからだと思  
います。私自身、長年抱いていた夢を他人に話すこと  
はなかったのですが、関西学院大学に入学して、夢を  
語る仲間の姿をかついといと感じ、最近になって話せ  
るようになりました。教授の先生方  
は研究者とい  
うこともあり、  
学生の夢を否  
定しない雰囲  
気があると感  
じています。



山崎 大学の先生たちも自分が研究したいことを進  
めていますから、人の夢を否定する人はいないと思  
います。教え方を身に付けた高校までの先生とはまた  
異なり、自分自身の研究方法や、新しいことを知ら  
たいという熱意を学生たちと共有することで、共に学  
んでいくのです。「あなたは どう思いますか」という  
学生への質問も、入学したばかりの頃は「先生は正解  
を知っていて、それを求められているんだろうな」と  
思いがちかもしれませんが、問うている方は答えを  
持ち合わせていないことも多いのです。だから、自分  
が思ったことを積極的に言ってみる。そして「そんな  
考えもあるんだ」と新しい答えを探求していきけるの  
が大学の面白いところです。学生と教員だけではな  
く、学生間でも、そんな雰囲気になっていってほしい  
ですね。

西方 私は、高校生の時に数学が苦手だったことか  
ら文系の学部を選び、そこで50%くらい将来の選択  
肢を失ったと思っていました。でも、総合政策学部のゼ  
ミでの研究や、K S Cには文理や分野を横断できる  
プログラムがあり、そこで自分の新たな興味に向かっ  
て突き進めば、新しい選択肢が生まれるチャンスがあ  
ると感じます。それをすでに経験している1年生の  
皆さんをとてもうらやましく思います。

山下倫 文理や分野を横断するプログラムを通して  
さまざまな人と関わることで、こんな考え方があ  
ったと学べるのは素晴らしいことだと思います。私も、  
そういうプログラムに参加してみたいです。

山下音 先輩方にこれだけうらやましがられていた  
ら、頑張らねばと思いますね。

山崎 本当ですね。これからどんな人たちが現れて  
くるのか、楽しみです。



# KSCでつながろう 新しい学びと交流の場

## Camping Campus

企業と共同での先進的な取り組みや、さまざまな分野の第一人者による講演会、学生主体のユニークなイベントなど、KSCを舞台に、学部や学年を越えてつながり、学び、交流する多彩なチャレンジが進行中です。

### あらゆるものをボーダーレス化した 非日常の時間と空間で学ぶ

**ア** ウトドア総合メーカーの株式会社スノーピークとの包括連携協

定により、学部や学年の壁、大学と社会の壁、教室や授業時間といった空間と時間の制約など、あらゆるものをボーダーレス化し、新しい学びの時間と空間を提供する試みを展開。大学キャンパスという「日常」とキャンプという「非日常」を融合することで、学生たちの好奇心や想像力をかき立て、自由な発想で

イノベーションを起こせる人材を育てる仕掛けづくりを行っています。

また、学内でのペットボトル排出量の年間10万本削減を目標に、学生有志のグループ「CAMPXUS（キャンプアス）」とスノーピークでKSCオリジナルマイボトルを共同開発。2021年12月現在、約2500本を売り上げ、2019年度比で約9万8600本の削減効果が見込まれています。



### 取り組み① 1DAYキャンプ

11月27日、28日  
10:00~11:00  
集合・オリエンテーション

**5** 5~6人ずつのグループに分かれ、スノーピークのスタッフも参加。日が暮れてからの「焚火Talk」ではグループごとに焚火を囲み、自然の風や揺らぐ炎の熱を肌で感じながらさまざまなテーマで語り合うことで、自分自身や周囲を見つめ直す機会ともなっています。

11月27日と28日に行われた1DAY

キャンプには、2日間で約40人が参加。学年や学部の枠を越え、カレー作りやSDGsに関するグループワーク、焚火Talkで交流しました。

### スケジュール

グループで  
カレー作り

11:00~  
12:30

SDGsについて  
考えるグループワーク

12:30~  
17:00

焚火Talk

17:00~





取り組み②

BIZCAFE



**理** 系学生のビジネスマインド醸成を目的とする学生と企業の新たな接点として2021年春、株式会社エンリッジョンと共同で、アカデミックコモンズ内にオープンしました。また、SDGs推進の取り組みとして、KSCオリジナルマイボトルを持参した学生にはコーヒーや紅茶等の飲料を無料で提供しています。



取り組み③

BIZCLASS



**企** 業や社会人が学生に助言・支援する会員制コミュニティで、BIZCAFEの中核的な取り組みです。エンリッジョンが参加企業や団体を募集し、キャリアセンターと共に運営に当たっています。  
第1弾は10月、花王グループの日用品化粧品の販売部門を担当する専門商社、花王グループカスターマーマーケティング株式会社が「売場を科学する『花王流』ショップマーケティング」と題したワークショップを開催し、約50人の学生が参加。商品購入者にフォーカスした研究、仮説実証、未来予測の方法など、現場で扱う事例をリアルに紹介し、大学での研究がビジネスの世界や未来にどのように役立つかを体感しました。11月には大同生命保険株式会社による「DX推進」をテーマにした第2弾も行われました。



参加学生のコメント



総合政策学部  
都市政策学科3年生  
佐野 愛莉さん

**C**AMPXUSに所属しており、初回から参加しています。焚火を囲んで本音で語り合える空間がすごく好きで、今回もそれを味わうために参加しました。カレー作りは初めて会った方たちとの友達づくりの場として楽しかったですし、グループワークではSDGsについて真面目にディスカッションし、その後は焚火を囲んでそれぞれの夢などを語りました。短いけれど濃い一日だったと思います。私のチームには生命環境や宇宙関係など理系の人が多く、SDGsに関してそれぞれ考えていることが違って、いろんな視点からの意見が出て、学部でのディスカッションとは違った面白さや学びがありました。

取り組み④

共同研究



**工** 学部の長田典子教授が、専門の感性工学に基づき、人がキャンパス体験を通じて得られる、わくわく感といった目に見えない感性の価値を数値化して評価。得られた知見を新しい学びの場やスノーピークのギア開発に生かします。

学生による学生のための企画

村尾信尚教授と関学生が大いに語り合う

11月24日、村尾先生貸し出しますプロジェクトチームによる「村尾教授があなただけの不安をZEROに!について友達作るぞ大作戦!!」が開かれました。アカデミックコモンズを会場に、Zoomのオンライン配信も行い、学生たちが本年度も村尾信尚教授と大いに語り合いました。

村尾教授の特別講義「私のチャレンジ」の内容を踏まえて、理想の社会や自分が活躍できる場についてグループワークを行い、さらにパネルディスカッションでさまざまな価値観を披露しました。



理学部  
物理・宇宙学科1年生  
岩橋 真央さん



**キ**ャンプが趣味なのと、スノーピークと大学とのコラボでどんなことをするのか興味がありホームページを見て参加を決めました。環境問題はこれから自分たちに直結する大事なことなので、SDGsをテーマに学生がこういう自然の中あまり授業らしくない環境で、みんな楽しんでながら学び、考えるのはすごくいいことだと思います。学生ならではの、各学部ならではの意見がたくさん飛び出し、自分たちのグループはもうろっ、他のグループの話も楽しく聞きました。また、焚火を囲むと、普段は浮かばないようなアイデアなどが出ることもあり、キャンプにはもったいなく感じました。

過去のイベント

- 第1弾 5月10日 池上 彰氏 (ジャーナリスト)
- 第2弾 5月14日 隈 研吾氏 (建築家)
- 第3弾 5月18日 ヨビノリたくみ氏 (YouTuber) × KSC 教授陣
- 第4弾 9月27日 久元 喜造氏 (神戸市長)



第5弾

## ポジティブ思考で人生を楽しく 橋本直氏を招いてトークショー



11月25日、関西学院大学OBであり芸人「銀シャリ」の橋本直氏をゲストに迎え、トークショー「はみだす、まざる、スクールシリーズ1」を開催。アカデミックコモンズを会場に、YouTubeのライブ配信も行いました。

第1部は、第3弾のクロスセッションから、KSCと学生たちがどう「はみだし、まざり」続けていくのかを藤原明比古工学部教授、西立野修平・総合政策学部准教授のトークで振り返り、考察。また、分野横断の学びを実践する学生として、理学部1年生の山下音緒さんも登壇しました。



第2部では、橋本氏が登壇し、「コミュニティデザイナーの山崎亮建築学部教授を司会に、「学んだことが一見関係なさそうに見える、ある日突然、役立つことがある」と、面白いネタが出来上がった自身のエピソードを披露。「専門分野とは違つことに挑戦して、駄目なら撤回すればいい。全てが無駄になるわけではない。分野を横断することで自分に希少価値を出しやす」とアドバイスを送りました。



イベントの様様をYouTubeでもご覧いただけます。

# 新生KSC再編・学部開設イベント

## 各界の著名人や教員陣と共に 分野横断型の学びについて考える

KSCの再編を記念し、新入生在学生に向けて、スペシャルゲストと共にKSCの分野横断型の学びに触れるイベントを開催しています。

参加学生のコメント

総合政策学部1年生  
吉永 陽南 さん



理工学部  
環境・応用化学科2年生  
吉川 晴琉 さん



**講** 演を通じて、いろいろな分野にはみだし、いろいろな学びを得て自分の価値になるものを積み上げていくことが大切だと実感しました。目指す分野をもっと探究したり、時には諦めて別の分野に移ったりしながら、自分の中に力を付けていきたいと思えます。春学期にSDGs実践入門を履修し、実際に活動されている方々のお話を聞いて、皆さんの知識を得、これからの人生を考えるいい機会になりました。今後はプロジェクトの立ち上げを考えていて、周りにいる助けを必要とする人、苦しんでいる人を少しでも助けられる存在になりたいと思います。

**私** は変に固執する性格で、これまでも柔軟になるよう言われてきましたが、それがなぜか分かりませんでした。今回のお話を聞き、周りが変化していく中で、少し柔軟性を持つて見ることが人生を楽しむために必要だと気が付き、生き方を改めていくきっかけになりました。また、コロナ禍での仕事の変化について、劇場で漫才はできなくなつたけれどライブ配信にしたことでより多くの人に見られるようになったとポジティブに話され驚きました。変化により新たに得られた良い点をどれだけ見つけられるか、考え方を柔軟にすることで今後の人生を充実したものにしていきたいです。



アカデミックコモンズ



「学習」と「憩い」と「学生活動」の融合」をコンセプトとする約800平方メートルの吹き抜けの空間は、グループでのミーティングや学習の場として活用されています。教員や学生によるワークショップなどのアクティビティも多彩で、また環境問題解決などに向けた複数のプロジェクトが進行。大学院生のクレセントチューターが学習相談にも応じています。

学

習」と「憩い」と「学生活動」の融合」をコンセプトとする約800平方メートルの吹き抜けの空間は、グループでのミーティングや学習の場として活用されています。教員や学生によるワークショップなどのアクティビティも多彩で、また環境問題解決などに向けた複数のプロジェクトが進行。大学院生のクレセントチューターが学習相談にも応じています。

新棟



4階建ての建物で、2022年8月の竣工を目指しバスロータリーの隣接地で工事が進んでいます。屋上には、天体観測の実習学生の自由な発想に基づく観測的・実験的な研究の場として、また天体観望会の実施など地域との交流の場として、天体観測ドームを設け、口径40センチ以上の反射望遠鏡を設置予定です。11月18、19の両日には、建築学部1年生と総合政策学部建築士プログラム2年生の計187人を対象に見学会を実施。施工状況や構造躯体の様子を見て回りました。

4

階建ての建物で、2022年8月の竣工を目指しバスロータリーの隣接地で工事が進んでいます。屋上には、天体観測の実習学生の自由な発想に基づく観測的・実験的な研究の場として、また天体観望会の実施など地域との交流の場として、天体観測ドームを設け、口径40センチ以上の反射望遠鏡を設置予定です。11月18、19の両日には、建築学部1年生と総合政策学部建築士プログラム2年生の計187人を対象に見学会を実施。施工状況や構造躯体の様子を見て回りました。

設計スタジオ



建

築学部の創設に伴いⅢ号館に新設。約500平方メートルのスペースに、製図と模型製作ができる特注のデスク140台が並びます。2台のプロジェクターや、模型を撮影するカメラブースも。建築学部と総合政策学部の建築士プログラムの学生たちが活用しています。

ボランティア活動支援センター  
ヒューマン・サービス支援室



授業実施期間中の毎週火・水木曜日10時30分〜17時に、Ⅱ号館2階210教室で開室している「ボランティアなんでも相談窓口」です。たくさんの方のボランティア情報を提供し、それぞれに合った活動と一緒に探すほか、学内の団体の横つながりをつくるイベントや交流会も実施。学生コーディネーターが活動しています。



# コロナの経験を 高等教育に生かす

新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの生活は一変しました。どのような問題が顕在化し、人々の意識や価値観はどのように変わり、大学の授業や学生にはどのような影響があったのかを検証。コロナ後を持続可能な社会にするには、私たち一人ひとりがどうあるべきなのかについて考えます。



国際教育・協力センター  
山田 好一 教授

東京都立大学工学部卒業、同大学大学院工学研究科およびペンシルバニア大学大学院都市計画研究科修士課程修了。修士(工学)。国際協力機構を経て、2013年から現職。専門は国際協力。



商学部  
阪 智香 教授

関西学院大学商学部退学(飛び級による大学院進学)、同大学大学院商学研究科博士課程修了。博士(商学)。1998年に関西学院大学商学部に着任。専門は会計学。



生命環境学部  
藤原 伸介 教授

広島大学生物生産学部卒業、同大学大学院生物圏科学研究科博士課程修了。学術博士。民間企業、イリノイ大学医学部研究員、大阪大学大学院工学研究科助教授を経て、2002年に関西学院大学理工学部に着任。2021年より生命環境学部長。専門は微生物生化学。

## 新型コロナウイルス 検出酵素試薬を 共同開発

※1…RNA  
リボ核酸。細胞の核や細胞質中に存在し、DNAとともに遺伝やタンパク質合成を支配。

山田 まず、お二人の研究内容を教えてください。藤原先生は、大阪母子医療センターや京都大学の先生方と共同で、新型コロナウイルス検出酵素試薬を開発されたことは記憶に新しいところです。

藤原 食品微生物や病原微生物など微生物を中心に、医療診断用酵素の開発といったところも幅広く研究しています。10年ほど前に解析し

ていた酵素を新型コロナウイルスに試したところ、びっくり当てはまりました。ウイルスのRNAを1時間以内に精度よく検出することができ、大阪府のモニタリングでは現場投入しました。

阪 会計学が専門で、企業環境対応や情報開示、CSR、最近ではSDGsやESGとの関係についてデータ分析しています。世界の全上場企業の財務データなどビッグデータも扱い始め、東京大学情報基盤センターのスーパーコンピュータで分析し可視化することもあります。例えば最近話題になっ

いる企業の付加価値分配率<sup>※4</sup>について、従業員の給与としてどれだけ分配し、税金をどのくらい払い、利益をいくら残しているかなどが世界規模で見えるので非常に興味深いです。

山田 私は国際協力機構に35年在籍し、関西学院大学に来る前はアフガニスタン事務所に勤務していました。現在は国際教育・協力センターで学部横断の授業を担当しており、本年度の春学期から「グローバル社会の課題と持続可能な未来」というSDGsに関連した講座も担当しています。

## 画期的なワクチン開発 一方で問題は 職を失う人が出たこと

山田 ここから本題です。私個人の意見としては、コロナ前の状況に戻ることはいらないでしょうか。コロナすべきではないと思っています。コロナとの共存を前提に感染拡大を抑えながら、経済活動を持続させるような世界を模索する、要するに「Withコロナ」ですね。それを克服した先に「Beyondコロナ」があり、そこではどのような生活を送れるのかが模索されていると思います。コ

ロ

※2…CSR  
Corporate Social Responsibilityの略。企業の社会的責任。

※4…付加価値分配率  
企業が生産等を通じて新たに生み出した付加価値が、その生産等に直接、間接に参加した関係者にいかに分配されるかを示した指標。

※3…ESG  
持続可能な社会実現のために、企業の長期的成長に必要な環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の3つの要素。それぞれの頭文字を取って作られた言葉。



※5…**エンデミック**  
ある感染症が、一定の地域に一定の罹患率で、または一定の季節に、日常的に繰り返し発生すること。

大禍の約2年間、われわれの日常生活や意識の面ではさまざまな変化がありました。コロナによる良い影響と悪い影響、顕在化した問題は何でしょうか。

**藤原** 今回、RNAワクチンが開発されたことは画期的でした。この技術は10年後くらいに実用化されるだろうというのが大方の研究者の予想でしたが、新型コロナウイルス感染症対策により一気に前に倒されました。個人的には、夢の手法をまさか体験できるとは思いませんでした。RNAワクチンは低コストで量産化できるので、おそらく近い将来、感染症を引き起こす多くの細菌やウイルスに対するワクチンも代替されるはずで、言われている副反応もRNAの量を加減することで対応可能です。この後、3回目、4回目のコロナワクチンを接種することになったとしても製造コストはどんどん下がるはずで、同時にインフルエンザなどのワクチンもRNAワクチンに置き換わっていく気がしています。

**山田** RNAワクチンが革新的な、今までにない技術で開発されたとは初めて知りました。先進国と途上国とのワクチン格差が浮き彫りになり、世界には打ちたくても打てない人が

いるので、コストが下がるのはいいことだと思います。阪先生はビジネスの面からどう考えますか。

**阪** 今回のコロナ禍は、ビジネスモデルの変革を加速しました。また、新しい日常としているいろいろな場面でオンラインが導入され、ある程度経験や蓄積がある人にとっては非常に便利で楽になった反面、学生たち若者が調査や学生活動などでどこかにコンタクトを取ろうとした場合にはすごく難しく、最初からオンラインだけではやりにくいことが分かりました。そういうところでも、新たに格差のようなものが生まれてしまったと思います。

**実験できないことで  
理系学生の意識は  
実験系から情報系へ**

**山田** コロナ流行の影響は、健康面の被害だけでなく、経済を直撃して景気の悪化を招き、職を失う人も出たということですね。では、阪先生がおっしゃったオンラインの効果について、理系の授業等ではいかがでしたか。

**藤原** 離れていても、それが海外であつても、容易に情報共有できるのは良い点で、コロナ後も活用すべきだと思います。一方、実験系では機械や試薬の扱いなどを学ぶ必要が

あり、約2年間、この習得がほとんどできませんでした。十分な実験の経験がない状態で学年が進行し、本年度の研究室配属が行われたため、4月当初は大混乱でした。オンラインによる映像で操作方法を見るのと、実際に1回でも経験しているのでは全然違います。この技術習得の空洞化が全世界的に起きています。

**山田** 対面でしか得られないものが理系には非常にたくさんあります。2年間という期間は結構長いですが、その影響は出ていますか。

**藤原** 生命系では、学生の意識が実験系から情報系に流れました。実験系はすごく時間を費やします。学生自身も実験の経験を積んでいないため研究現場で苦労するのは分かっており、本年度は情報系の研究室が大人気でした。

**山田** 阪先生の商学部では、オンライン授業に対する学生たちの反応や意見はどうでしたか。

**阪** 知識を学ぶ授業であれば、オンライン授業の方が資料が見やすいし復習もできて学びやすいと感じているようです。ただ実際のビジネス上の課題はいろいろな要素が複雑に絡み合っているので、それをみんながアイデアを出し合って解決していくのはオンラインでは難しく、ゼミは必ず対面しています。



**プラス面として  
学生本意の教育の  
可能性が出てきた**

**山田** コロナ禍での大学の在り方や

### ※6…PBL

Problem-based LearningまたはProject-based Learningの略で、問題解決型学習。生徒や学生中心の教育手法で、答えが一つに決められていない問題を解決する経験を通して学ぶこと。

価値に関しても多様な声がありました。

**阪** アメリカではすでに2014年ごろから、大学が学費に見合う価値を提供できていないと言われるようになりました。大学間競争に勝つために各大学が豪華な設備を造ったりしたことで学費が値上がりし、その支払いに学生はローンを背負う。返済のため卒業後は給料の高い金融機関などに入り、短期利益を追求した結果、経済の不安定につながっていく。行き着く先には限界があります。現在は、ミネルバ大学などオンライン講義を活用し授業を行う大学が学生を集め、オンラインの導入で容易に海外の大学で学べるようにもなりました。その中で、大学の価値って何だろうと考えた時、ミ

ネルバ大学でも核とする、問題を解決できる4つの技能、クリティカル思考、クリエイティブ思考、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身に付ける授業が絶対に必要だと思ひ、商学部では3年ほど前から、授業にPBLを取り入れました。学生に評判がよいし、学生が成長していく姿も見られます。これらの大学はオンラインを活用し、かつリアル授業をいかに価値のあるものにするかが重要で、それが関西学院大学の価値にもつながるのではないのでしょうか。

**山田** オンライン授業や反転授業の促進など、コロナでの2年間の経験、学びを生かすことが大事ですね。善しあしは別として、オンライン授業の方が参加や質問をしやすいという学生の声もあります。教育専門家には、学生が、大学の持つオルタナティブを選ぶ時代に入ってきたと話す人もいて、withコロナの2年間で学生本意の教育の可能性が出てきました。これはプラスの面ですね。他方、理系で実験をしないとモチベーションを維持できない、文系でも周囲の学生とアクセスしないと不安になる。阪先生がおっしゃるように対面ではないことがあり、対面とのハイブリッドでやるべきだと思います。

### 教員自身も 授業内容をチェックし 質の向上につながった

**山田** 大学の価値という点で、コロナ禍をどう見えていますか。

**藤原** オンラインにより素晴らしい授業といふ加減な授業のシロクワがはつきりし、教員にとっても、自身の教育態度とか教育コンテンツなどの質をチェックする良い機会になったと思います。大学の姿勢や、いかに良いコンテンツを学生に提供できているかが問われました。それが授業の質の向上につながったと思います。

**山田** 理系で実験ができないと、学生のモチベーションの維持が大変だったと思います。学生に変化はありませんでしたが。

**藤原** 研究室配属において、実験系から情報系に人気傾向が流れたと言いましたが、学生が就職先にメーカーよりも金融関係やシンクタンクを選ぶというケースもあります。これは世界的に起きている現象のようです。理系教育が研究開発の面白さや魅力をいかにして伝えるかが大きな課題だと再認識させられました。

**山田** 阪先生、オンライン化によるコミュニケーションの変化はどのように感じられますか。

**阪** ビジネスの世界でも二極化していると感じます。オンラインをネガティブに捉える人と、いくらでも人に会える機会だと積極的に捉えている人と。後者にとっては、ものすごいチャンスが訪れたということですが、学生を見ても、対面ではコミュニケーションが取りづらいと感じてい



### ※7…反転授業

学習者は事前にオンデマンド動画などで講義内容を学習し、対面授業では講義形式の授業は行わず、演習や議論、グループワークなどアクティブラーニングで学習を深める形式の授業。

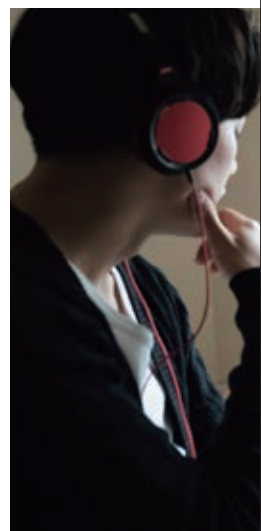
も、オンラインだったら得意なタイプもいます。

### こもりきりの1年を経て 対面授業が始まると 意欲的に勉強

**山田** 対面だとあまり質問をしないけれど、遠隔で自分の顔が出ない形では質問しやすい。それが社会で本当にいいかどうかは別として、そ

※8…オルタナティブ  
「主流な方法に代わる新しいもの」といった意味で使用される英語由来の言葉。代案、代替物、二者択一の選択肢。





会社に依存しない人が  
一番元気に  
働いている

いう姿勢です。

う言っている学生は多いですね。一

般的には親がテレワークをする様子や、子どもが勉強する姿を家庭で見ることができ、まっとうな仕事とはどのようなものか、家族とは何かなどを考えるきっかけになったのではないのでしょうか。藤原先生は、今回のコロナで生活が変わったという感じはありますか。

**藤原** 私自身の生活は、コロナの前も後もほとんど変わっていません。理系の教員はいつも大学にいるイメージだと思いますが、そのこもる傾向がより顕著になった人はいます。学生で言えば、昨年の1年生は入学したものの学校に来られない、実家に帰りたくても帰れず、友達もできないまま下宿生活を送るという状況でした。年齢的にも多感な時期に1年間、そういう経験を強いられた影響は大きいと思います。実際、2年生になって対面授業が始まると、ものすごく勉強しています。教室の前の方から席が埋まってくし、質問もたくさんします。一生懸命勉強して全て吸収しないといけないと

**山田** いい意味での反動ですね。

SDGsの目標「働きがいも経済成長も」のテーマにディセントワークの促進があります。ディセントとは「まともな、きちんとした」という意味で、ここでは働きがいのある人間らしい雇用と表現されています。阪先生のお話や学生を見ていると、ディセントワークの時代に入ってきた感じを受けます。働きがいのある、人間らしい仕事とはどのようなイメージですか。

**阪** 会社に依存しない人が一番元気に働いている気がします。学生でも、同じ企業にずっと勤めるという意識を持っている人は少なくなり、能力のある人ほど会社を辞めてベンチャーに行ったり起業したりと、どんどん飛び出しています。そのためには能力を付けることが必要です。理系から金融関係やコンサルに就職することのお話でしたが、それは文系の学生が頼りないからとも言えます。文系の学生も、データ分析や数学などの能力を付けていかないとダメですね。

**藤原** 技術のコアを持っている人は

どんどん転職しているということですね。生命環境の分野で言えば、誰にも負けないような技術者としての強み、例えば有機合成でも分析化学でも、専門性を持っている人材になること。そういう人に少しでもビジネスのセンスや知識が加われば無敵です。学生にはそのことに気付いてほしいのですが、まだまだ教員の努力不足もあると感じています。

**山田** 文系、理系と分けて考えるのではなく、文理の強みを併せ持ち生かしながら、社会的に通用するレベルの知識を持って大学を出て行く必要がありますね。ただし理系の場合は、3年、5年で辞めてしまつと結果も何も出ないように思います。

**藤原** おっしゃる通り、実用的な技術をつくらうと思えば10年くらいかかないとできません。そこが理系の人材があまり企業を移らない理由の一つで、やはり研究することが楽しいのだと思います。卒業生でもメーカーの研究部門に入った人は辞めていません。ある意味、文系にはない魅力かもしれません。

**山田** 逆に、文系の人には3年、5年で辞めると割と簡単に言います。その根本にあるものは何なのでしょうか。

**阪** 多分、今の企業が、学生が求める価値を提供できなくなっているのではないかと思います。若い人の価値観とずれている部分が少しあり、業務内容や働き方に対して、「保守的で、チャレンジがしにくい」と敏感に感じている。変われず、企業の新陳代謝が進まなかったことが、この



30年間経済が成長できなかった大きな要因だと思います。長寿企業も日本の魅力の一つである一方、健全な新陳代謝を起こさないと社会は活性化しないし、成長もありません。企業側は意識的に若者が求めている組織文化や能力に応じた待遇を提供する必要があり、この「コロナ禍」は、企業が変わるチャンスでもあります。

※9…ステークホルダー資本主義  
企業に影響する全てのステークホルダー（利害関係者）との関係を重視し、企業活動を通してステークホルダーへの貢献を目指す長期的な企業経営の在り方。

## 関学生には 世界を良くしたいと 志を持つ人が多い

**山田** そのために大学はどうすればいいでしょう。

**阪** 協働して問題を解決する力やビジネスモデルを読む力を身に付けてほしいところですが、どうしても簿記の発想が合わない学生もいます。苦手分野を無理やりやらせるよりも、得意な分野を伸ばしていくことが大事です。仕事はチームワークですから、それぞれの得意なところを生かして、協働して複雑な問題を分析し、解決できればいいと思います。

**山田** 関西学院大学の学生を見てみると、「Mastery for Service」の精神が浸透していて、穏やかで協調性のある学生が多いですね。企業などの人事担当者からは、関学の学生はすごく性格がいいから採用したいという声を聞きます。

**阪** コロナ前ですが、休憩時間もあちらこちらから笑い声が聞こえてきて、校舎の雰囲気も美しく、それが関学生の明るさにつながっています。しかも、志を持っている学生が結構いて、自分の夢を実現する、お金を稼ぐだけでなく、みんなの夢を実現するため、世界を良くするためにと考えています。SDGsにも

ごく熱心です。

**山田** 担当している国際ボランティアプログラムでも、前段の説明は不要です。誰かのために仕えたい、何かをしたい、そこから入ってきますから。

**藤原** 理系の学生もコアメインドは同じです。入学した時から「Mastery for Service」の精神に親しみ、チャペルアワーなどもあって、そこは関学生の強みだと思います。

## ステークホルダーが 適切に意思決定し 良い社会をつくっていく

**山田** では、コロナ後の社会に話題を移したいと思います。コロナ禍では経済活動が停滞したことにより、二酸化炭素の排出量が減りました。しかし、コロナの影響が収まっていけば経済活動が再開され、二酸化炭素もどんどん増えてくると予測されます。ビジネスや産業の場において、コロナ後の世界はどうあるべきですか。

**阪** 最初に山田先生が言われたように、二元に戻さないことが大事です。私自身は、出張がオンラインになり、時間的、体力的な負担が軽減されましたし、交通機関の不要なエネルギーを使わなくなりました。効率的に時間を使い、環境への負荷も減らすことができます。経済界では、

企業は何のためにあるのかという考え方が、かつての株主第一主義からステークホルダー資本主義<sup>※9</sup>に変わっています。ステークホルダーの皆

が満足し、CSV<sup>※10</sup>を追求し、社会を良くしていくって企業も伸びていくという発想です。これはSDGsの達成にも関わる重要な動きで、ちゃんと機能させるには、私たちステークホルダーの一人ひとりが適切な意思決定をすることです。そして環境に悪影響を与える企業は支持せず市場から退出してもらって、逆に良い企業は評価するというふうには、ステークホルダーが自覚と責任を持って良い社会をつくっていくことが重要だと思います。

**山田** 近江商人の商売の極意「三方よし」の考え方は、「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」。

「世間よし」の概念がないと、投資家や消費者には選ばれず、企業にはなりません。この概念を取り込んだ上で、方向性を考える必要があります。SDGsで言えば、コロナ禍では世界レベルで格差が生まれ、どう対応すべきかが問われました。そこは目標3「すべての人に健康と福祉

## 近江商人の「三方よし」 「世間よし」の概念が 企業には必要

を」に関連する人間の安全保障の概念が大事です。個人ではどうにもならない恐怖と欠乏からの自由という、開発支援する人たちの基本概念で、それを念頭に置いて格差を是正しなければなりません。残念ながら、SDGsもコロナでやや後退気味だといわれています。藤原先生、そ

を」に関連する人間の安全保障の概念が大事です。個人ではどうにもならない恐怖と欠乏からの自由という、開発支援する人たちの基本概念で、それを念頭に置いて格差を是正しなければなりません。残念ながら、SDGsもコロナでやや後退気味だといわれています。藤原先生、そ



※10…CSV  
Creating Shared Valueの略。共通価値の創造。企業が社会課題等に主体的に取り組み、社会に対して価値を創造することで、経済的な価値が共に創造されるという意味。

※11…三方よし  
近江商人に受け継がれている商売の哲学。「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の三者がよしとなる商いをすべきという教え。



よかったです。最終的に、ある一定レベルに到達すれば学位を与えるような機構・機関が国際的に認知されると、大学に行かずして学位を取るような人材が出てくるかもしれません。

### 戻れる状況になっても 学びを生かし あえて戻さないこと

**山田** SDGsは目標とする2030年まで10年を切っています。国連のグテーレス事務総長が昨年1月の演説で、待たなしで行動を起こすことが求められると話しました。キーワードは自分事化です。近

江商人の「世間よし」まで概念を広げて取り組まないと、なかなかうまくいかないと思います。では、「コロナを教訓に、より良い社会に向けて、一人ひとりがどのように取り組めばいい」と思いますか。

**阪** 社会では今、企業に求められる役割がとて大きくなっています。国のGDPと企業の売上を高い順に並べた場合、アメリカや中国、日本など各国のGDPが続き、26位にアメリカの小売り企業ウォルマートが入ります。そこからほとんど企業が増え、上位100社では国6割・企業4割、上位500社になると8割が企業です。経済的には、かつて

は国が一番パワーを持っていたのに、今は多くの先進国が財政問題を抱えて動けない。一方で、企業の活動内容が私たちの生活に大きな影響を与えるようになりました。その時に、企業がどのような活動をするかは私たちの行動が決めるのだという意識を全ての人が持つておく必要があると思います。どの企業の製品を買うか、どの企業の株を買うか、どこに就職するか。私たちの一つ一つの意思決定が企業を選択しており、それが結果的に、良い社会をつくっていくことにつながっているという意識を持つことが大事です。

**山田** その通りだと思います。

**阪** そのためには個々が企業活動を知らないといけないし、歴史をしつかり学ぶことで社会や企業の過去の失敗などを知ってほしい。それにより、誤った意思決定によつて起り得る失敗を未然に防ぐこともできるのです。

**藤原** 私は、おそらく今年の夏頃には「コロナ前の状況に戻れるだろう」と予測しています。その時に、今回の経験から学んだ反省点や広がった可能性まで全てゼロにして昔のスタイルに戻すのではなく、是正し、効率化していくことが肝要です。研究の打ち合わせや情報共有はオンラインの方が効率的な場合が多い

ことが分かりました。一方で実験環境は直ちに元に戻さなければなりません。もともと実験棟は屋内でも、屋外より空気が入れ替わる換気システムが備わっていました。もう少し早く戻しておくべきだったと悔やまれます。もう以前には戻れないと言え、いつまでもこの生活を続けていられるという甘えにつながります。また、大学のサークル活動や友達との集まりなども学生のコミュニケーションの機会としていかに重要かということが分かりました。そういう大切な時間などは、できることから戻していかないといけないと思います。

### 一人ひとりの行動は 微力かもしれないが 無力ではない

**山田** Withコロナの教訓を忘れず、何を戻し、何を戻さないのかをまず考えることですね。大規模授業のオンライン化や質の高い授業の提供など、Withコロナで見えてきた可能性を生かし、コロナ前とは異なる行動を取ることで持続可能な社会の構築を目指すべきだというのが私の考えです。これを学生に実行しなさいと言うと、彼らは大したことはできないからと答えます。でも、一人ひとりの行動は微力かも

ならないけれど、無力ではありません。そう話して背中を押すようにしています。

**藤原** 実験系のプロジェクトの多くは、各個人のデータが積み重なり価値のある成果になります。成功した時は甲子園の野球チームのような達成感と連帯感が得られます。学生にはこの経験を忘れず、研究以外の活動でも一人ひとりの取り組みの意義を意識してほしいと思います。

**阪** ある書物に、「ヒーロー一人では世界は変えられない」という意味の言葉がありました。変えていくのは一人ひとりです。

**山田** その通り、万里の長城も、ピラミッドもヒーロー一人で造ったわけではありません。普通の人たちが何十年もかけてコツコツと取り組んだからこそ、完成したわけです。これから訪れる社会も同様で、ポストコロナでの私たちそれぞれ小さな行動がより良い社会づくりにつながることを肝に銘じておきたいと思っています。





人はなぜその場所に住むのかを  
地価などのデータから解明し  
防災や都市政策に生かす



人が集まる都市と集まらない都市はなぜできるのか等、都市に関する問題を、そのまちの土地価格など具体的な値から検証し、さらに解決方法にもアプローチします。土地や住宅の価格はオークションのようにそこに住みたい人がどれだけお金を出せるかで決まりますから、人々がそこに住みたいと思う度合いは、その場所の価格で測ることができます。

最近では、都市の問題の中でも災害に焦点を当てて研究を進めています。例えば地震。人はできるだけ安全な所に住みたいと思うので、地震のリスクが少ない所に集まります。すると土地や住宅の価格は上がります。一方、地震のリスクが高い所は誰も住みたがらないので価格が下がるはずですが、実際にそのようなことが起きているのかを検証したところ、地震のリスクは土地や住宅の価格に反映されていることが分かりました。

また、安全な地域と危険な地域の両方で再開発が行われたケースについて検証しました。再開発は建物が新しくなるので耐震化が進み、より安全になりま

す。すると土地の価格が上がってもおかしくないのに、危険な地域では再開発後もそれほど価格は変わりませんでした。経済学と心理学が融合した行動経済学の理論が関係していることが分かりました。価格が上がらないとなると民間企業は再開発に乗り出そうとはしませんから、危険な地域が

安全な地域に誘導したいと、国や自治体は考えていますが、なかなかうまくはいきません。そのためには、水害に対して、人々はどういうリスク認知をして、どのような行動を取るのかを明らかにする必要があります。人々が住む場所を選択するとき、水害リスクはどの程度関わってくるのかを



危険なまま放置されます。そんなことになっては大変です。よって、地震リスクの高い地域の再開発や耐震化投資は国がやるべきだという提案になります。

今、水害も毎年のように発生し、建物が流されたり、土砂崩れに巻き込まれたりしています。水害のリスクが高い地域に住む人を

誘導も含め、国は今、優先的に住んでほしいエリア「居住誘導区域」を定めて、そこでの住宅開発や商業・公共施設の建設に支援を行っています。都市、中でも地方都市の人口流出によるスポンジ化を解消するため、同区域に固まって住んでもらおうとしているのです。時節柄、密を避けて、集約されつつある居住地が再び分散する懸念はありますが、今後も人々の誘導には関わっていきたいです。みんなが災害リスクをしっかりと認知した上で賢く居住地を選択できるように、あるいは国や自治体が有効な都市政策を打ち出せるように、その一助になりたいと思います。

私の研究には都市に関するデータが必要不可欠であり、ゼミでもデータを使って何かを導き出すことが基本となります。学生たちには、データを手にしたときに平均値から大多数の傾向を見るだけでなく、それ以外の部分にも目を向けてほしいです。何か違う要素や原因が隠れているかもしれない。自分に都合のいい数値だけを拾わず、正直にデータと向き合ってほしいと思います。

知ることが重要になります。そのため、現在は水害のリスクがある地域の土地価格から、どのくらい人々がその場所に住みたがっているのかをあぶり出しています。最終的には、国や自治体の都市政策にアドバイスできるところまで持っていきたいと考えています。災害リスクの高い地域からの

## 経済学部 山鹿 久木 教授

**Profile** Hisaki Yamaga  
立命館大学経済学部卒業、大阪大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。筑波大学専任講師を経て、2008年に関西学院大学経済学部に着任。2010年から現職。専門は都市経済学、地域経済学。

## My favorite



### 料理

始めたのは18年前。出産後の妻を手伝ったのがきっかけです。今ではキッチンに立つとほっとするほど、好きになりました。アウトドアでもダッチオーブンで料理。ローストチキンを作る際はふたの上にも炭を置くと、上下の火でうまく焼けます。



# Moment 2011







## 表紙で振り返る関学ジャーナル

タブロイド判で始まった関学ジャーナル。  
今号で紙媒体での発行は最後となりました。  
現在の冊子形態になってからの  
関学ジャーナルを表紙で振り返ります。



特別号記念号



# 2022

2022年4月より新たにオウンドメディアを開設し、Webからの情報発信を行います。ぜひご期待ください。

## 一人ひとりのアイデアを生かし 途上国を支援するアクションを促進

昨年10月、所属するCIEC公認の学生団体「GS(Global Student Network)」のメンバーと共に、途上国の食料問題解決に向けた行動を呼び掛けるキャンペーン「おにぎりアクション」の促進イベントを展開。大学生協と連携し、西宮上ヶ原キャンパスのコンビニ前でおにぎりや豚汁を販売した。

同キャンペーンは、NPO法人TABLE FOR TWO Internationalが主催。おにぎりの写真をSNS等に投稿すると、1枚につき給食5食分の寄付金が協賛企業から提供され、アジアやアフリカの貧困地域の子どもたちに届けられる。取り組みを知り、「学内で活動を広めたい」と、留学生との交流を中心としたイベントを企画・運営してきたGS Networkの仲間提案。約20人が手を挙げた。

大切にしたのは、いかにメンバー一人ひとりの力を引き出し、最大限に生かすか。「私たちができるのは、おにぎりを提供し、撮影し、投稿すること。その中で何をするかはアイデア次第」と道筋を示すと、SNSを使った広報や撮影用の背景パネルの作成など、多彩な意見が出された。

おにぎりの味は定番の4種に加え、「チャーハン」「ナンゴレン」などの変わ

り種を日替わりで用意。豚汁とのセット販売も行った。また、大学職員からの助言を受け、学生より1時間ほど早い教職員の昼休みから販売を開始。結果、5日間でおにぎり435個、豚汁255杯が売れ、161枚の写真が投稿された。

「パネルのデザインや販売時間の設定などは、私一人では思い付けません。いろいろな人の意見を聞くことで、自分の視野も広がりました」と振り返る。冬には団体を引退。活動を通して得た「個々人の長所を生かせる人になりた」という目標に向け、前へ進む。



共にイベントを実施した「GS Network」のメンバーと(左から3番目が阿部さん)

01 Saya Abe  
阿部 紗也さん  
国際学部3年生







02

Yosefu Manabe  
眞鍋 ヨセフさん  
神学研究科 博士課程前期課程1年生

## 若者のリアルを届けるWebサイトで あらゆる世代が議論できる場を

「政治や社会の問題を議論できる場をつくりたい」。2020年に受講した柳澤田実・神学部准教授の講義をきっかけに、思いに共鳴する、同志と出会い、昨年5月、議論のプラットフォームとなるWebサイト「elabo（エラボ）」を立ち上げた。

新型コロナウイルス感染症の流行により休校や授業のオンライン化など学生生活が大きく変化する中、「自分の生活と政治は密接に関わっているのに、政治を語り合う場が身近なことになり気付きました」。柳澤准教授の授業でブラック・ライブ・ズ・マターと米国大統領選挙が取り上げられ、ヒップホップをはじめとするカルチャーと政治、宗教の関係性について学ぶことで、日本と米国の政治への意識の違いを知った。授業後、日本の社会や政治について議論する場を持ちたいと願う学生が集い、柳澤准教授からWebサイトの創設を提案された。

サイト名は、「elaborate（詳しく述べる）」と「選ぶう」を掛けた造語。多くの人に政治への関心を持ってもらえるよう、政治のほか、カルチャーやアイデンティティを切り口に記事を発信する。学生が取材・執筆をする記事がある一方、「あらゆる世代の、さまざま

な視点を持つ人に読んでもらえるように」と社会人による記事も掲載し、柳澤准教授の監修を受けることで多角的な内容を心掛ける。

「記事を読んでくれた友人と政治について話し合っけができた、というメンバーもいます」。11月には日本の民主主義システムや差別問題について議論するトークイベントを開催。約50人の参加者が耳を傾けた。「Webサイトと並行して、今後もイベントなどを開いて、elaboが目指す『考え、議論できる場』ができれば」。望む未来へ、着実な一歩を踏み出す。



「elabo」の記事ページ。米国の10代を対象としたWebマガジン「Teen Vogue」を参考に、若者世代を象徴するようなビビッドな色使いを取り入れた



※黒人に対する暴力と人種差別への抗議運動。





## Eco-Habitat関西学院

創部 / 1996年

部員 / 99人

部長 / 須藤 帆南

活動場所 / 神戸三田キャンパスVI号館101教室

### 「withコロナのエコハビ」

### 今だからこそできる活動を

Eco-Habitat関西学院、通称「エコハビ」は、世界各国で住宅支援に取り組む国際NGO「Habitat for Humanity」に所属し、海外家建築活動を中心に行っている学生ボランティア団体です。

代表的な活動は三つあり、一つ目が「Work Camp」。毎年夏にフィリピンやドゥマゲツティ市で実施するエコハビ独自の家建築プログラムで、派遣先に10日間ほど滞在し、主に家建築の手伝いや文化交流、滞在地域の観光などを行います。

二つ目は「Global Village」です。これは、Habitat for Humanityが提供する短期海外建築プログラムで、1997年春より年に1、2回参加しています。渡航前には、街頭募金やフリーマーケットを行い、集まったお金を家建設資材費として派遣国へ届ける活動にも取り組めます。

三つ目は「二企画（二回生企画）」。1、2



# KG CLUB by KGB

昼休みの放送や番組制作などを行っている関西学院大学唯一の放送団体・KGB総部放送局が、多彩な課外活動を紹介します！

KGBの活動は

Twitter→<https://twitter.com/KGBbroadcast>



## Pick up

### チャリティーバック

Global Villageドネーションのために、チャリティーグッズとしてエコバッグを作成。オンライン販売を行い、売り上げを寄付しました。コロナ禍で活動が制限される中でも支援の幅を広げることができた活動の一つです。



年生のみで企画・立案・実施するもので、本年度は環境をテーマに行いました。Habitat for Humanityが、「誰もがきちんとした場所でも暮らせる世界」の実現を理念として活動していることもあり、団体としてSDGsに関連した活動も行っています。

海外へ渡航し、受益者のために学生団体が家建築をするという経験や、派遣先で異文化交流をしたり、ボランティアの意義について考えたりして学びを得られることは、エコハビの魅力の一つといえます。

しかし、現在は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、渡航は厳しい状況にあります。そこで、本年度の年間目標には「時代に合わせてエコハビをアップデートする」を掲げ、これまでの「エコハビ」を土台に、今の時代（コロナ禍）に合った新たなものを積み上げていくという思いを込めました。さまざまな制限がある中でも、学生ボランティア団体としての活動を継続できるように、自分たちで何ができるのかを考え、国内ボランティア活動に取り組んでいます。今後は、感染対策を徹底しながら対面活動を増やしていく予定で、「withコロナのエコハビ」を創り上げていきます。



大学

学生企画のオンラインツアー「思い出つくりTaiwan」  
旅行会社と共に実施

短期留学の代わりに設けられたオンライン国際教育プログラム「グローバルPBL (観光デジタルマーケティング)～台湾の学生とコロナ禍における旅行業界の課題を解決しよう～」を受講した29人が、台湾の学生と共同でオンラインツアーを企画。日台混成グループ10組に分かれて作成したツアーから、「思い出つくりTaiwan」が(株)JTB神戸支店とJTB台湾によって商品化され、9月4日(土)に実施されました。

当日は、一般参加者約40人が見つめる中、学生自らがツアーの見どころを紹介。台湾の学生が観光地を巡ったり、おいしい食べ物に舌鼓を打ったりする動画の途中には、クイズも挟みました。ツアーを企画した一人、板倉ゆうなさん(法学部1年生)は「現地に行けない中、お客さまにどうやって喜んでもらえるかを考えた」と話しました。



大学

硬式野球部の黒原拓未さんが  
プロ野球・広島東洋カープから1位指名

10月11日(月)に行われたプロ野球新人選手選択会議(ドラフト会議)で、硬式野球部の投手、黒原拓未さん(社会学部4年生)が、広島東洋カープから1位指名を受けました。

記者会見に臨んだ黒原さんは、「1位で評価してもらえたのはうれしい。ここで終わりではなく通過点とし、向上心を持って上のステージに行きたい」などと飛躍を誓い、カープについては「ファンが多くて、地元にも愛されている。高校の後輩になる林晃汰と小林樹斗がいて、一緒に野球ができるのがうれしい」と述べました。

会見の後、報道関係者向けにカープの赤い帽子をかぶり記念撮影。最後には和歌山から駆け付けたご両親に指名を報告し、感謝の言葉を伝えました。



関学カプセル…⑤

上ヶ原移転



関西学院の大学昇格の動きに伴い、甲山山麓の上ヶ原台地に7万坪を取得。甲山頂上と通称芝川通り(現学園花通り)の中心線とを結ぶ直線上に正門、中央芝生、時計台頂点を配置し、その左右に校舎を整備した新キャンパスは1929年2月に完成、3月31日に移転が完了しました。

大学

若者のための国家デザインコンテスト  
「未来国会2021」で法学部生が全国準優勝

法学部開講科目「議員インターンシップ実習」の一環で、西柚実さん、吉江真悠さん、劉真希さん(いずれも法学部1年生)が国内最大の学生向け政策コンテスト「未来国会2021」に出場。30年先に災害による死者を限りなくゼロに近づけ、「災害強靱国・日本」を目指すという政策は、

9月26日(日)にオンライン開催された全国決勝大会で準優勝に選ばれました。





大学

### 山崎亮・建築学部教授が監修した百貨店の取り組みがグッドデザイン賞を受賞

「2021年度グッドデザイン賞」の発表が10月20日(水)に行われ、山崎亮・建築学部教授が監修した、あべのハルカス近鉄本店のコミュニティデザインプロジェクト「縁活」が受賞しました。

「縁活」は、2013年の同店オープン以来、継続して行われている取り組みです。売り場に市民活動団体が使用できるスペースを設置し、専属のコーディネーターを配置。活動発表や作品展示、情報発信など、さまざまなプログラムが展開されています。

買い物に訪れる場所というこれまでの百貨店の在り方から進化し、日常的な地域コミュニティの場所として、一つの街のような機能を果たしている点が評価されました。



大学

### 井村誠孝研究室と片寄晴弘研究室の学生チーム バーチャルリアリティの作品コンテストで全国準優勝

学生の手による<sup>\*</sup>インタラクティブ作品のコンテスト「Interverse Virtual Reality Challenge (IVRC) 2021」(主催:日本バーチャルリアリティ学会IVRC実行委員会)のLEAP STAGEにおいて、11月6日(土)、バーチャルリアリティ学研究室(井村誠孝研究室)とエンタテインメントデザイン研究室(片寄晴弘研究室)の学部生、大学院生で構成したチームが、全国準優勝に当たるVR学会賞を受賞しました。

受賞作品「mirror ⇄ 10nim」は鏡の世界において、行動感覚の左右反転など現実では不可能なバーチャルリアリティ(VR)ならではの空間を創出。プレイヤーは現実空間とVR空間を行き来することで特殊なVR空間への没入感をさらに味わうことができます。

<sup>\*</sup>プレイヤーの行動によって提示される情報が変化する体験型作品。



KGグルメ

### 東京庵(西宮上ヶ原キャンパス)

#### 豚生姜焼き定食

千切りキャベツの上に重なるようにのった豚肉は、しょうがの香りが食欲をそそります。ライス、みそ汁、漬物が付いて750円(税込)。人気の定食類のほか、小鉢が充実し、季節限定メニューも提供。唐揚げトッピング(通称:半から)をはじめボリュームも選べるので、空腹具合によりカスタマイズできます。店内の歴代体育会の写真やポスターも必見です。



大学

### SDGs達成に取り組むグループが学食でプラントベース食を提供

SDGsの認知度向上、ゴール達成に取り組む学生グループ「KAKEHASHI」が11月8日(月)から5日間、西宮上ヶ原キャンパスの学生食堂「BIG MAMA」で、肉を使用しないプラントベース食

「大豆ミートのタコライス」を提供しました。牛肉や豚肉の生産がいかに地球に負荷を与えているか考えてほしいと企画したもので、連日売り切れの人気となりました。



大学

### アメリカンフットボール部ファイターズが甲子園ボウル4年連続32回目の優勝

アメリカンフットボールの大学日本一を決める「三菱電機杯第76回毎日甲子園ボウル」が12月19日(日)、西宮市の阪神甲子園球場で開催され、全日本大学選手権西日本代表の関西学院大学ファイターズが東日本代表の法政大学オレンジに47-7で勝利。4年連続32回目の優勝を果たしました。

試合は、ファイターズが終始優位に進め、第3クォーターを終えた段階で16点差という展開に。第4クォーターは攻守ともに相手チームを圧倒。年間最優秀選手に送られるミルズ杯も前田公昭さん(社会学部4年生)が獲得しました。



大学 高等部 千里国際中等部・高等部(SIS)

### 高大連携科目「総合政策トピックスA」で高校生と大学生が国際公共政策を学ぶ

8月2日(月)から4日間、村田俊一・総合政策学部教授と豊原法彦・経済学部教授が実施する総合政策学部の高大連携科目「総合政策トピックスA」が開講され、大学生と共に5人の高校生が履修しました。ゲストスピーカーとして、国連大学サステイナビリティ高等研究所の山口しのぶ所長が講演するなど、履修者にとって貴重な機会となりました。



大学

### 「TEAM EXPO 2025」プログラムに共創パートナーとして参画

関西学院大学は、公益財団法人2025年日本国際博覧会協会が取り組む「TEAM EXPO 2025」プログラムに共創パートナーとして参画しました。SDGsに関心の高い学生が集まる学内プラットフォームを形成し、さまざまな形で展開される共創チャレンジを支援していきます。



高等部

### 県総合文化祭自然科学部門で理科部が生物分野最優秀賞を受賞

11月6日(土)、7日(日)の2日間、バンドー神戸青少年科学館において、兵庫県高等学校総合文化祭自然科学部門の発表会が行われ、関西学院高等部の理科部が口頭発表で生物分野最優秀賞を受賞。今夏に開催される全国高等学校総合文化祭東京大会に県代表として出場することが決まりました。

発表者は3年生の伊藤暁さん、1年生の金榮智治さん、小島祐樹さん、松田直樹さん、吉井大喜さんの5人。「近畿地方のシマドジョウ种群の分布と系統II」と題して、作成したスライドを見せながら発表しました。さらに、パネル(ポスター)発表でも優秀賞を受賞。多くの参加者が足を止めていました。





千里国際中等部・高等部 (SIS)

高等部の福田綾さんが  
SDGs動画コンテストでグランプリ

関西学院千里国際中等部・高等部 (SIS) 11年生の福田綾さんがMBS毎日放送主催の「私のオススメこんなことやっています SDGsレポートコンテスト」でグランプリを獲得しました。同コンテストでは、未来を担う若者のSDGs活動を応援するため、日頃から地球のために取り組んでいる行動や研究内容の動画を募集。グランプリの作品は11月1日(月)に同局のSDGsに関する番組の中で放映されました。

動画では登下校の際に毎日利用している階段を取り上げ、「エスカレーターを使うよりエコ」「エスカレーターより早い」と訴えています。福田さんは「SDGs関連のイベントで初の受賞。それもグランプリということでき驚きました。高校生活の思い出が一つ増えてよかったです」と感想を述べました。



初等部

約1年9か月ぶりに  
全校児童がそろって礼拝

11月29日(月)、初等部で約1年9か月ぶりに全校児童がチャペルに集い、アドヴェント(待降節)礼拝を行いました。この日までは新型コロナウイルス感染症予防のため3クラスはチャペルで、他のクラスは放送で礼拝を守っていましたが、全校児童での礼拝を週に一度だけ復活することに。ただし賛美歌は歌わず、礼拝のために録音した6年生による「主を待ち望むアドヴェント」の歌声を聞き、心の中でイエス・キリストをたたえました。



中学部

アイデアロボコン近畿大会  
計測・制御部門で理科部が優勝

10月31日(日)に大阪市立淡路中学校で開催された「第21回創造アイデアロボットコンテスト大阪市中学生大会兼近畿大会」の計測・制御部門で、関西学院中学部の理科部チームが優勝し、全国大会に駒を進めました。また、基礎部門には2年生クラス代表と理科部チームが出場。理科部チームが審査員特別賞とロボコン大賞を受賞して全国大会へ進出し、2年F組代表チームが第3位に入りました。



読者アンケート  
&  
プレゼント

関学ジャーナルのアンケートにご協力ください。ご協力いただいた方の中から抽選で5名様に、広島東洋カープからドラフト1位指名を受けた硬式野球部投手の黒原拓未さん(社会学部4年生)の「サイン入り写真」をプレゼントします。右記QRコードからアンケートにお答えください。締め切りは2022年3月31日(木)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

※写真の絵柄は変更になることがあります。写真は選べません。  
※お寄せいただいた個人情報は、プレゼントの発送以外では利用いたしません。

Present



Question  
naire

アンケートの回答は  
こちら





# 数字でみる関学

関西学院大学では、多彩なSNSを通して最新のトピックスやキャンパスの風景、学生の学びや日常の様子を発信しています。

## 関西学院大学の公式SNS

※フォロワーなどの数字は2021年12月末現在、最もいいね数や最多リツイート数は2021年1年間のものです。

### Instagram



フォロワー数: **18,844**  
 最もいいね数: **2,589**

各キャンパスの美しい風景やアメリカンフットボール関連の投稿が人気です。



広島東洋カープからドラフト1位指名を受けた黒原拓未投手(社会学部4年生)の投稿は、フォロワー外からのアクセスが非常に多く、期待の高さがうかがえました。これからの活躍にも注目です。

### YouTube



KSC理系4学部新設に伴い、研究施設やプログラムの動画もたくさん公開されました。

チャンネル登録者数: **6,539**  
 最多再生回数: **40,755**  
 (2021年1月~12月)

ゆきりぬ氏、ヨビノリたくみ氏といった人気動画クリエイターとの動画が話題を呼びました。

#### KSC新棟見学



### Twitter



フォロワー数: **30,408**  
 最多リツイート数: **151**



### facebook



フォロワー数: **51,220**  
 最もいいね数: **2,261**



#### 学生Twitter&Instagram

学生広報団体「これが関学」「これぞ関学」「これも関学」が運営するSNS。関西学院大学の魅力を受験生にも知ってもらおうと、各キャンパスでの学びや受験勉強方法などを紹介しています。







## 世界を舞台に互いの得意分野を持ち寄り協力して働く



マカオ半島中心街のきらびやかなカジノ群



新興住宅が立ち並ぶタイパ島石排湾地区に接続する新交通システムを建設中

本入社後、エンジニアリング事業会社に向  
し、海外営業職を務めて約3年になります。現  
在はマカオで約10年間続く交通インフラプロジェ  
クトの継続案件を担当しており、新事務所立ち  
上げ等のミッションを果たすべく現地に滞在中  
です。世界的なコロナ蔓延により当地は徹底的  
な水際対策が敷かれ、税収源の8割とも言われ  
ているカジノ産業も停滞気味の様子ですが、その  
ような時世でも発注くださったお客さまの期待  
に応えるべく、日々奮闘しています。

在学中は人間福祉学部で学びながら国際ボラ  
ンティアプログラムの「国際社会貢献活動」に参  
加し、JICA青年海外協力隊員としてスリラ  
ンカに行きました。サッカーのコーチをする中で、  
学校や地域によつて所有する道具の数や質に差  
があると感じ、環境格差を乗り越えることをテ  
マにしたワークショップとサッカー大会を開催し  
ました。現地の学校教員や教育官はもちろん、さ  
まざまな分野のJICA隊員の協力がなければ  
実現しませんでした。

そこでの経験は今の仕事でも生きています。  
社会的影響の大きいプロジェクトで幅広い業務所  
掌にオンタイムで対応し続けるためには、自分一  
人の力では到底かきません。各部門のローカル  
スタッフ・日本人たちの協力を得て、物事を前に  
進めることがとても重要です。世界を舞台に働  
く際には互いの得意分野を持ち寄り、協力してい  
くことが一層求められると思います。

挑戦することで自分の足りないところや強み  
が見えるようになります。関西学院にはそのサ  
ポートが充実しています。受け身ではなく能動的  
に動けば、誰かが見てくれていて手助けしてく  
れます。成長機会は無限です。

大学生活はあつという間ですが、ぜひ積極的に  
チャンスを得てください！

## 協定校紹介

### マカオ大学 University of Macau

1981年に私立東アジア大学として設立され、91年に中国マカオ特別行政区にある唯一の公立大学として正式にマカオ大学に改名されました。

教員の8割がマカオ以外の出身者であり、英語を主な教授言語として、大学はグローバルな考え方や国際的な競争力を備えた創造的で社会的に責任のある学生の育成に取り組んでいます。

学部生向けに、独自の「4-in-1」教育を提供しています。これは、分野別の教育、一般教育、研究およびインターンシップ教育、コミュニティおよびピア教育で構成されています。

Times Higher Education (THE) 世界大学ランキング2022で201~250位の範囲にランク付けされており、国際展望では世界5位、アジア大学ランキングで38位にランクイン。また、QS世界大学ランキング2022年では322位にランクイン。

関西学院大学とは2013年に包括協定と学生交換協定を締結以来、16人の学生を交換し、活発な交流が維持されています。





大学図書館Webサイトでは、開館日・開館時間、図書館情報の確認やOPAC(蔵書検索)、データベースなどの情報検索ツールを使うことができます。



## AI活用人材育成プログラムとのコラボ企画 特集「AI」実施中!

「AIに漠然とした不安がある」「AIを使いこなしたい」「そもそも“AI”とは何なのだろう、それによって自分や社会にどのような変化がもたらされるのだろう」

西宮上ヶ原キャンパス大学図書館で実施中の特集「AI」では、そういったさまざまな思いや疑問にこたえられるように、図書館員だけでなく、已波弘佳副学長(工学部教授)をはじめとするAI活用人材育成プログラムに携わる先生方にも選書にご協力いただき、「AI」関連の図書を集めました。他キャンパス図書館への取り寄せも可能です。入門書はもちろん、少し難しい専門書、AIやロボットが登場する小説もありますので、ぜひチェックしてください。



西宮上ヶ原キャンパス大学図書館1階特集コーナー



本学AI活用  
人材育成プログラム  
<https://www2.kwansei.ac.jp/ai/>



特集コーナー図書リスト  
[https://library.kwansei.ac.jp/pdf\\_data/other/ai-list.pdf](https://library.kwansei.ac.jp/pdf_data/other/ai-list.pdf)



大学図書館  
Webサイト トップページ  
<https://library.kwansei.ac.jp/>



@KG\_Lib

## 教 職 員 の 新 刊



### 新版 核兵器禁止条約の意義と課題

富田宏治 法学部教授 著  
かもがわ出版

2021年1月22日、核兵器の開発、実験、製造、保有、取得、貯蔵、使用、威嚇、配備、移転等を明確に禁止した核兵器禁止条約が発効。世界は国際法によって核兵器の違法化が実現した新たなステージへと進み、核兵器の禁止から廃絶への新たな歩みが始まりました。本書では、核兵器禁止条約という達成をもたらした国際社会の変化を明らかにするとともに、「核兵器のない世界」への今後の展望を提示しています。



ここが変わった!「聖書協会共同訳」新約編  
浅野淳博 神学部教授 共著  
日本キリスト教団出版局



鉄道と郊外  
駅と沿線からの郊外再生  
角野幸博 建築学部教授 編著  
鹿島出版会



対米同盟とは何か  
ノラッドと米加関係  
櫻田大造 国際学部教授 著  
勁草書房



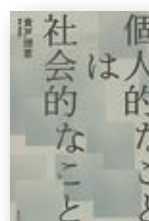
独習アセンブラ 新版  
大崎博之 工学部教授 著  
翔泳社



モビリティと地方創生  
次世代の交通ネットワーク形成に向けて  
野村宗訓 経済学部教授 共著  
晃洋書房



2040年 生き残る自治体!  
小西砂千夫 大学院経済学研究科・人間福祉学部教授 著  
学陽書房



個人的なことは社会的なこと  
貴戸理恵 社会学部准教授 著  
青土社



社会学的思考の歴史  
社会学は何をどう見てきたのか  
田中耕一 社会学部教授 著  
関西学院大学出版会

\*本データは、これらの書籍が刊行された当時のものです。\*これらの図書の多くは、大学図書館で貸し出しています。



## 聖書に聞く



院長 舟木 讓

イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの教えに基づいている。』

マタイによる福音書 22章37-40節

## 今

回の聖句の前半は「あなたの神である主を愛する」ということが重要な教えとしてイエスより語られます。キリスト教では人間も含めて、この世界全体が神によって創造されたと考えます。この教えから、自然と共に神によって造られた人間が、自然を自らの所有物のように錯覚し、人間の都合で好き勝手に荒らすことは、人間としてのたしなみから外れていることが明らかにあります。私たち人間が、自然の恵みによって生かされているという事実謙虚になり、自然環境破壊による甚大な自然災害が頻発する現状から、より良き自然環境を取り戻し、その状況を維持することが、自らに命を与えてくださった神に対する正しい向き合い方であることが分かります。

また、後半では、「隣人を自分のように愛する」ということが「主を愛する」と同じように重要であると考えます。この前提となるのは「自分を愛する」ということですが、それを可能にするためには、自らに誠実に向き合い、自らに与えられているかけがえのない命の尊さに気づき、それに感謝する人生態度が不可欠であると言えます。

そして、そのことに気づくとき、他者も自らと同じ、かけがえのない尊い存在であることへと思いが至るはずで、同時に私たちの命を取り巻く自然環境が悪化するときに、それぞれの命も危機に瀕することへと思いを馳せ、自然と多様な個性を有した個々人の命を「愛し合う」ことが、真の幸福と平安、そして希望につながることに気づき、その実現に向かって、共に力と祈りを合わせてまいりたいと切に願います。

## 編集後記

今回はKSC文理・分野横断型キャンパスを特集しました。新たな学びの私たち、学生さんの話を聞いて私自身とてもうれやましく、ワクワクしました。なお、紙での発行は今号をもって一旦終了となります。寂しい気もしますが、Webを中心に発信する新たな関学の情報サイトにも、ぜひご期待ください！またどこかでお会いしましょう。(松)

## 関西学院の情報発信が変わります！



2022年4月より、関西学院大学の教員の研究を中心に、悩める今の時代を生きる全ての人にヒントを与えられる、そんな情報をお届けできればと鋭意制作中です。お楽しみに！

リズムをつくるイス。



# ing

360° Gliding Chair

KOKUYO

kokuyo.jp/ing